

期間:2024年12月20日(金)~2025年1月6日(月)【18日間】

佐藤 かなで (スポンサークラブ 郡山東 LC) 派遣時:19才

タイトル: 多文化社会マレーシアでの発見と学び

マレーシア YCE 派遣生として、マレーシアの家庭でホームステイをしながら、現地の人々と交流する貴重な機会を得た。他民族国家であるマレーシアは、マレー系・中華系・インド系など、多様な文化が共存しており、異文化理解を最適な環境であると感じた。

私の滞在先はジョホール州スガマトの中国系の家庭で、ホストファミリーは両親と子どもが3人の家庭だった。このホームステイ先では、ホストファミリーと共に食事をする機会が多く、現地の食文化をより深く理解することができたと考えている。例えば、インド系朝食「ロティ・チャナイ」や中華系の「海南チキンライス」など、さまざまな食文化に触れることができた。マレーシアでは、一つの国に居ながら、異なる民族の食文化を体験できるのが、大きな魅力だと感じた。

また、滞在中にはクアラルンプールの有名な観光地や歴史的な街マラッカにも訪れる機会があった。クアラルンプールでは、まず「バトゥ洞窟」を訪れた。ここはヒンドゥー教の聖地であり、巨大な金のムルガン神像が立っていることで有名である。内部にはヒンドゥー教の神々を祀る寺院があり、神聖な雰囲気漂っていた。ここでは、ヒンドゥー教の信仰と文化について学ぶことができ、マレーシアの多宗教社会をより深く理解することができた。マラッカは、かつてポルトガル、オランダ、イギリスなどの支配を受けた歴史を有する街であり、その影響が色濃く残っていた。特に「オランダ広場」や「セントポール教会」では、西洋の建築様式と東南アジアの文化が融合した独特の雰囲気を感じた。また、ニョニヤという衣装を着ることでプラナカン文化に触れることができた。ニョニヤ衣装とは伝統的なマレーのクバヤと中国の刺繍技術が融合したものである。マレーシアの多文化共生の象徴ともいえるプラナカン文化に触れることで、異なる文化が融合し、新たな伝統が生まれる過程の面白さを実感した。

今回のホームステイを通じて、私は言葉の壁を越えてコミュニケーションを取る重要性を実感した。ホストファミリーの温かいサポートのおかげで、充実した時間を過ごすことができたと感じている。また、マレーシアの多文化共生社会に触れ、宗教や価値観の違いを理解し、お互いを尊重し合うことの重要性を学んだ。特に、食文化や宗教的習慣など、日常生活の中に根付いた文化の違いを尊重することが、円滑な異文化交流の鍵であると強く感じた。

帰国後も英語やマレー語を勉強し続け、いつかまた必ずマレーシアを訪れたい。